



翁島小学校だより

第16号 H29. 12. 8 発行 文責：校長 星 善樹

◎ 「人権」について話をしました…。～人権週間(12/4～12/10)に合わせて～

12月4日(月)～12月10日(日)は、人権週間でした。それに合わせて、12月4日の全校集会では、子供たちに人権の話をしました。人権週間が定められたのは、1949年(昭和24年)、終戦から4年が経過した年でした。戦争中は、不自由な時代でした。人権が踏みにじられることも多かったことと思います。そうした反省に立って、平和で一人ひとりが自由に幸せに暮らせる世の中を考え、設けられたのが人権週間なのだと思います。しかし、戦後70年以上経過した今でも、世界各地で争いが続き、いじめや虐待、セクハラ、パワハラなど人権を無視した行動が大きな社会問題となっています。

さて、子供達には、こんなふうに話をしました。

人権とは……

人権とは、一人一人が生まれた時から持っている「自分らしく生きる権利のこと」。権利という言い方は難しいかも知れないけれど、つまり、みんな生まれたときから「自分らしく生きてよいですよ」とされているのです。このことは、日本の憲法にも定められています。

人権週間とは……

私たちは、全部が同じ人なんてだれもいません。人権週間は、一人一人の違いを認め、自分やお友達の良い所を見つけて、それぞれが大切な存在であることを知る大切な一週間です。

人権週間を機会に……

○自分の好きなどころはどんなところか考えてみよう。

たくさん見つけられたら自分がもっと好きになるはず。

○お友だちの好きなどころはどんなところか考えてみよう。

お友だちの良い所をたくさん見つけられたらその子がもっと好きになるし、そのお友達もきっと嬉しいはず。

○自分とお友達の違うところを考えてみよう。

一人一人良い所、素敵などころがたくさんあるはず。それを個性と言います。

それを認めながら、自分や友だちの良い所をたくさん見つけて下さい。

得意なこと苦手なことも人それぞれです。みんなが一人一人優しい気持ちを持って、困っている人がいたらそれぞれに得意なことを生かして助け合えたらいいですね。

人は、それぞれ。同じ人なんてだれもない。自分と違うからといって仲間はずれにしたりいじめたりしてはいけない。一人一人がかけがえのない大切な存在であることをこの人権週間を機会に翁島小学校みんなで確認しましょう。



おめでとう！

◎ 北会津地区児童造形作品展

特選 6年 W.Mさん W.Kさん 4年 H.Mさん 3年 H.Sさん

2年 K.Aさん 1年 S.Kさん S.Aさん Y.Rさん

入選 5年 K.Wさん F.Yさん 4年 Y.Sさん

3年 S.Kさん 2年 K.Eさん

◎ 平成29年度 第50回福島県児童作文コンクール(県出品作品)

佳作 5年 H.Gさん 4年 W.Kさん 1年 M.Hさん



◎「福島銀行ふるさと自然環境基金」助成金をいただきました。

翁島小学校は、継続して行っている水環境学習の活動が認められ、「平成29年度福島銀行ふるさと自然環境基金」の助成対象校に選ばれました。去る11月27日(月)、福島銀行本店において行われた助成金贈呈式には、学校を代表して校長が参加し、福島銀行社長より表彰状と助成金10万円をいただきました。また、受賞対象となった本校の水環境学習について活動の状況を発表して参りました。本当にありがたいことです。いただいた助成金は、今後の教育活動に有効に活用させていただきます。尚、今回の受賞は、保護者の皆様や地域の皆様のご支援、ご協力、そして、「猪苗代の自然を守る会(代表 鬼多見賢 様)」の皆様の指導の賜物と感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。



◎ご存じですか？翁島小学校の「校章」の歴史・・・。

2年生担任の大堀先生から、道德の時間の教材として「校章」を扱いたいという話があり学校沿革誌(学校の履歴書みたいなものです。)で調べてみたところ、以下のように記載されていました。



校章がいつ制定され使用されたかは判然としない。しかし明治30年に写した野口博士の写真には、学帽がかぶられているからこの頃以降には帽章も用いられたのではなかろうかと



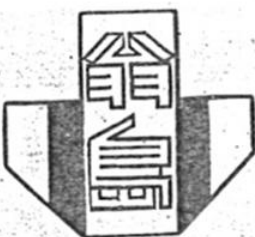
川井源治氏が想起して描いた帽章図

推察される。昭和初期の卒業写真の中の校旗には、『翁嶋』と染め抜かれてあり、一応校章として考えてもよいと思う。当時は、すでに帽章には『翁』の文字が使用されているが、現物は一個も残ってはいない。左図は、川井源治氏(昭和7年度卒)が想起して描いた帽章図である。校章として意図的に制作されたのは昭和8年であり、デザインは二科展出品の画家小林猶次郎(こばやしなおじろう)氏である。小林氏は、みなとや(長浜)に長期逗留していたという。この校章は講堂の新築落成祝いとして作成されたもので、その意味するところは、「健康不老、円満和協、高尚優雅」である。しかし、この校章は、その標徴の意味とは裏腹に、他校の児童より「オカメッパ」と言われ、本校児童には、必ずしも喜ばれてはいなかったおきもあったらしい。現在の校章は、昭和30年秋頃、当時の図工科主任であった佐藤信太郎氏(昭和24年3月31日～昭和31年3月31日在職)のデザインなるものである。戦後の混乱も一応安定しつつあった当時、新しい時代の本校を表徴する校章を持ちたいと思われた時の校長遠藤伸男氏により考案を依頼されたものである。この校章について佐藤氏は「磐梯山を『小』という文字にあてはめたものである」と説明された。爾来(ジライ・「それからのち」の意味)男子の帽章として、また女子の胸に付したバッチとして愛用された。



健康不老
円満和協
高尚優雅
翁島校標徴

小林猶次郎氏作成の校章



佐藤信太郎氏作成の現在の校章

校章一つにも先人の思いがたくさん込められていることがわかりました・・・。
大切にしていきたいものです。